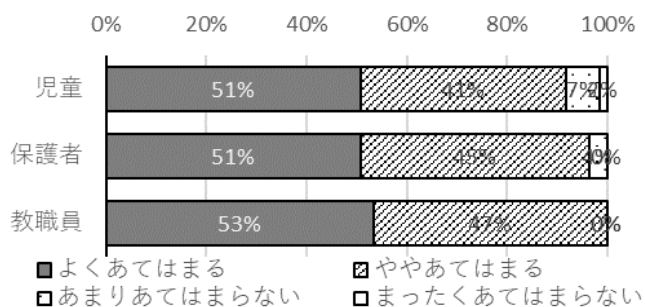


令和5年度 学校評価 集計結果

①学校が楽しい。

※学校へ行くのが楽しい。



※お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。

※児童が楽しく学校へ通うことができるよう、日々の教育活動を工夫している。

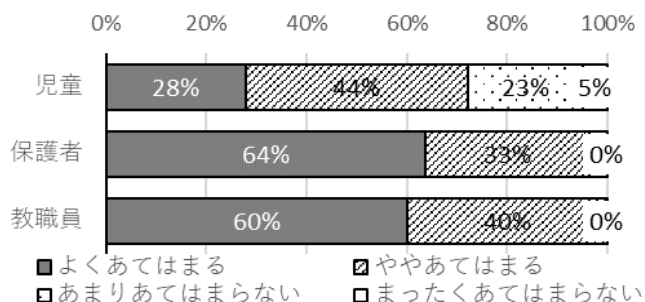
成果と課題	92%の児童が楽しいと感じているが、楽しくないと感じている子もいる。(5名) 授業や人間関係に悩んでいる児童がいるのではないかと考える。(7)(14)(18)
※対策	各担任が児童観察を続け、気になることがあれば共通理解をする。データを学年別で見て楽しくないと答えた児童の学年を把握し、再検証する。タブレットの導入など、授業方法を改善し、楽しいと思える学習活動にしていきたい。

②早寝・早起き

※毎日、決められた時刻に起き、夜更かしをせずに決められた時刻に寝ている。(早寝・早起き)

※家庭では、早寝早起きをさせている。起床…登校の1時間前 就寝…低21時・中21時30分・高22時

※早寝・早起きなど基本的な生活習慣の大切さについて指導している。



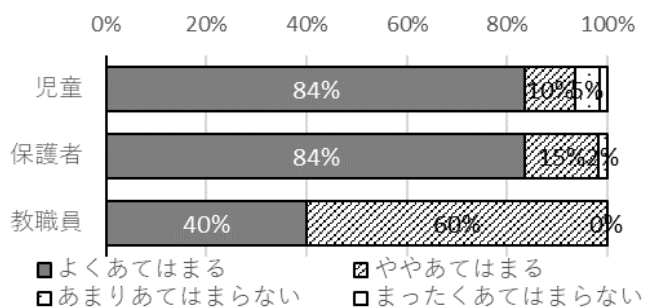
成果と課題	ほとんどの保護者が指導をしていると答えているが、児童17名ができていないと答えている。家庭内での生活習慣に対するきまりが守れていない、あるいはきまりがあいまいになっているのではないかと考える。
対策	児童への指導を継続するとともに、学年便り・保健便りの活用を行っていききたい。また保護者への周知・啓発をし、ゲーム等の時間について、家庭でのルール作りに取り組んでもらうようにする。

③朝食について

※毎日、朝ご飯をきちんと食べて学校に来ている。

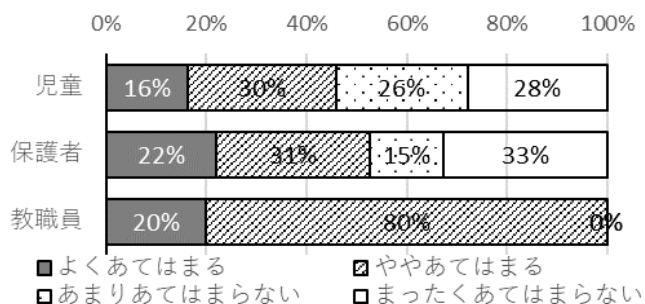
※家庭では、朝ご飯を必ず食べさせている。

※食育を通して朝食の大切さについて指導し、保護者にも啓発を図っている。



成果と課題	94%の児童が朝食をとっているが、4名の児童がきちんととれていない。②の生活習慣(早寝・早起きと関連しているのではないかと考える。朝起きられず、朝食を摂ることができないまま登校しているのではないだろうか。
※対策	養護教諭や栄養教諭も授業に参加して朝食の大切さを理解させたい。また保健便りなどを活用して保護者への周知・啓発に取り組みたい。

④毎日歩いて登校



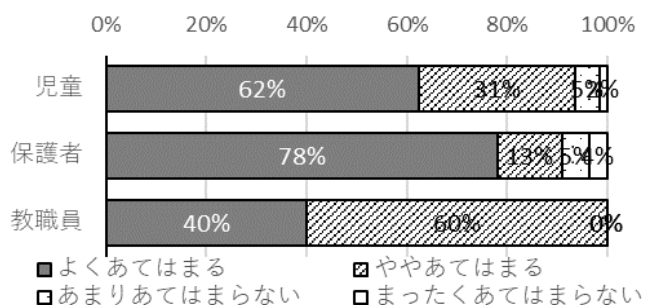
※体調の悪い時以外は、毎日歩いて登校している。

※体調の悪いとき以外は、歩いて登校させている。

※体調の悪いとき以外は、できるだけ歩いて登校するよう呼びかけている。

成果と課題	33名もの児童が、歩いて登下校していない。29%↓本校が住宅地から離れた高台にあるという立地条件が影響していると思われる。高学年でも遠い子は30分以上かけて歩いてきている。学校再編があればほとんど車になるのではという懸念がある。
※対策	地域の実情からやむを得ない面もあるが、保護者に啓発をする。学校としては、体力作りを今まで以上に取り組みたい。歩道に出ている植物のある施設をお願いして、歩道を通りやすくしてもらうなど協力をお願いする。

⑤毎日の宿題を忘れずにできている。



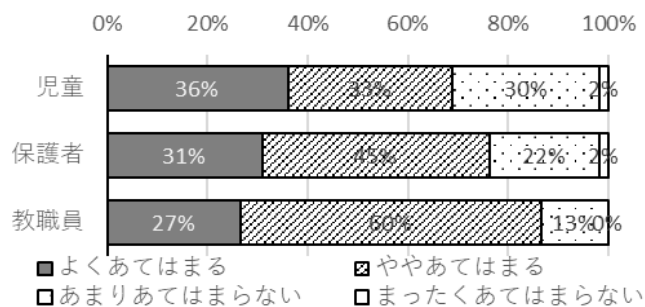
※毎日宿題を忘れずにできている。

※家庭では、毎日宿題をするよう声かけをしている。

※児童の家庭学習の習慣が身に付くよう、適切な内容・量の宿題を出したり、その確認を行ったりしている。

成果と課題	93%の児童が毎日宿題に取り組んでいるが、4名の児童ができていないと答えている。あわせて保護者も5名声かけができていない。②の生活習慣の乱れから、ゲームや動画に時間を費やし、落ち着いて宿題に取り組めていないと考える。
※対策	宿題に関して、適切な内容・量を見直し、家庭で継続してする習慣をつける。保護者と相談して場合によっては学校でさせる。また保護者と連携して家庭で宿題をサポートしてもらうようにする。

⑥自主勉強・読書について



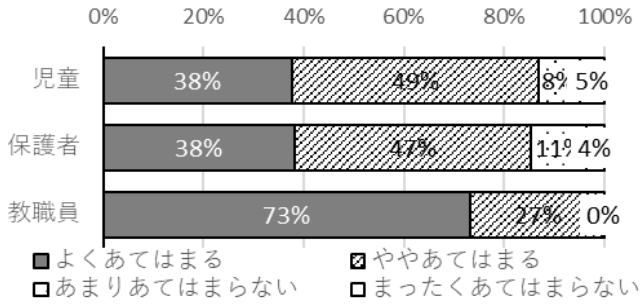
※自主勉強や読書も自分から進んでできている。

※家庭では、読書や自主勉強などに取り組めるよう励ましている。

※学習の手引きを活用して自主学習の仕方について指導したり、本の紹介や読み聞かせなど、児童の家庭での読書につながる指導をしたりしている。

成果と課題	19人の児童が自主学習・読書に進んで取り組めていない。何をしたらよいのか、どうノートにまとめたらよいのかわからない児童がいるのではないかと考える。時間を取って教師が児童に自主学習の進め方を教える必要がある。また本校は図書室がないので、じっくり落ち着いて読書ができる場所がない。
※対策	各学年に応じた学習の手引きを活用して自主学習ノートの使い方を指導する。読書については、担任と時間をとって図書ホールに見に行く。また職員の共通理解で週末読書を実施する。

⑦基礎学力



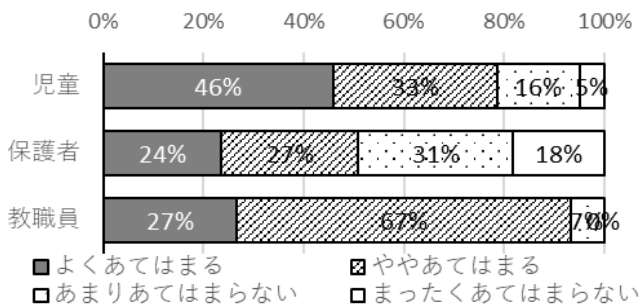
※今の学年で習った漢字の読み・書きや、計算、音読ができる。

※お子さんは、漢字の読み・書きや計算などの基礎学力が身に付いている。

※漢字の読み・書きや計算、音読などの基礎学力が身に付くよう継続して丁寧に指導している。

成果と課題	87%の児童が基礎学力が身に付いていると感じているが、8名の児童・保護者ができていないと感じている。授業の内容を一人一人が理解できるよう手立てを考える必要がある。
※対策	継続して授業では基礎・基本の徹底に努めるとともに、タブレットを活用するなど授業が楽しいと感じるようなものを取り入れる。またミニテストなどを実施してその都度、児童の理解状況を確認していきたい。

⑧タブレットについて



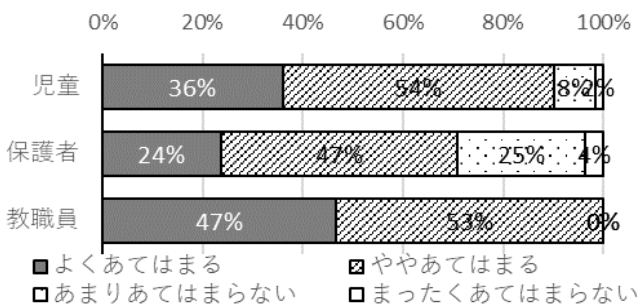
※タブレットを使うことで学習がわかりやすくなった。

※お子さんは、家庭でも、タブレットを用いて学習をしている。

※タブレットなどのICT機器を効果的に活用した授業を実践している。

成果と課題	児童が13名、タブレットの効果を感じていない。家庭でも、児童があまりタブレットを活用して学習できていない。タブレットの有効な活用方法を、発達段階に応じて紹介していきたい。
※対策	視力の低下も懸念されるが、定期的にタブレットを使った宿題を提示していくことも必要かと考える。

⑨当番・係活動・掃除



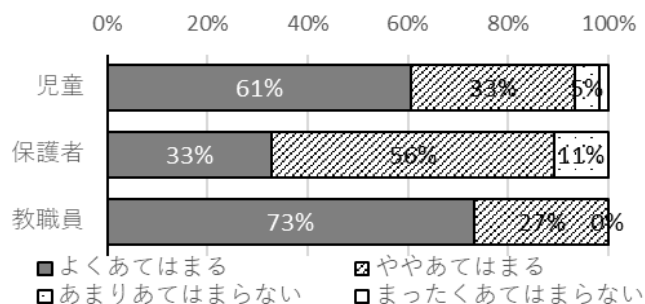
※当番や係の仕事、そうじなどに進んで取り組み、一生懸命できている。

※家庭では、決まったお手伝いをさせ、働くことを大切にしている。

※他人や学級・学校のために進んで働くことができる児童を育てている。

成果と課題	90%の児童が係や掃除にまじめに取り組んでいる。しかし、保護者が家庭であまりお手伝いをさせていないと答えている。(16名)家庭環境によるが、多忙さ、部活動の疲れ、生活習慣の乱れが影響しているように考える。
※対策	掃除の時間は、なるべく無言で時間いっぱいすることを徹底したい。合わせて掃除道具の使い方をきちんと教える。また、できている子はさらに力をのばすような指導をしたい。「お手伝い日記」や「お手伝い週間」などのワークシート・掃除時間に音楽をかけるなど工夫していきたい。

⑩挨拶・返事・ありがとう



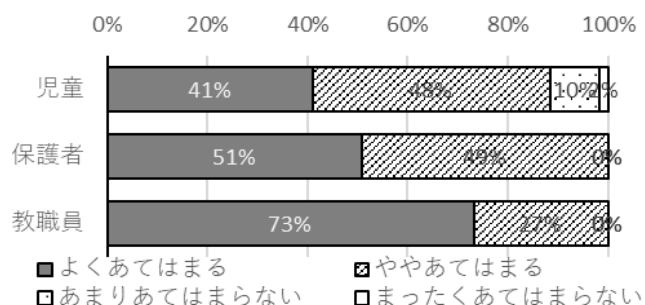
※家族や先生、友達や地域の人に「あいさつ・返事・ありがとう」ができています。

※お子さんは、場に応じた言葉遣いや挨拶ができています。

※児童が保護者・地域の方々や教職員に「挨拶・返事・ありがとう」ができるよう、声掛けや指導をしている。

成果と課題	今年度、朝の挨拶が一段とできるようになった。児童の表情が明るい。しかし保護者と児童で評価のギャップがある。保護者にできていないと感じている人が11%いるので、学校外では挨拶や礼儀正しくすることがあまりできていないのではないかと考える。
※対策	引き続き挨拶に関しては指導を継続し、いつでも誰とでもできるようにしていきたい。校内では、教職員から積極的にはじめていきたい。あわせて家庭での挨拶も啓発していきたい。

⑪家庭・学校・社会生活のきまりやルール



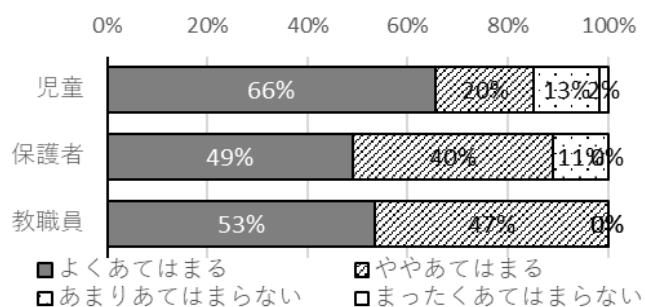
※チャイムの合図や決まりを守って生活している。

※お子さんは、家庭や学校、社会のきまりや交通ルールを守って生活している。

※児童がルールやきまりを守って生活するよう、機会をとらえて指導している。

成果と課題	89%の児童がきまり・ルールを守っているが7名の児童が守れていない。4月当初、学級づくりの段階で徹底してきたことが、時間がたつにつれて、だんだんとあいまいになってきているのではないかと考える。担任の継続した指導が必要である。
※対策	今後もルールやマナーを守ることを継続して指導していきたい。あわせて校内研修で学校のきまりを見直し、時代にあったものにしていきたい。

⑫家庭とのコミュニケーション



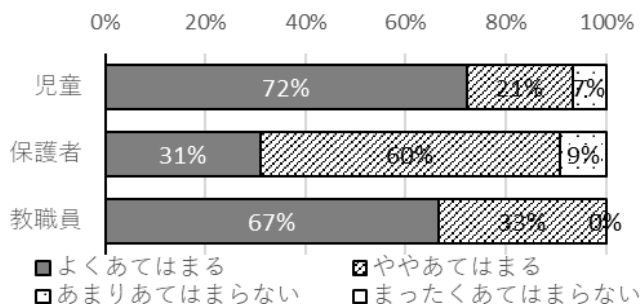
※家の人に学校の出来事をよく話している。

※お子さんは、家で学校の出来事をよく話している。

※児童や保護者とのコミュニケーションを密にしている。

成果と課題	86%の児童は学校の出来事を家庭で話しているが、話していない児童もいる。塾や部活、生活習慣が原因で保護者と話す時間が少ない児童がいるのではないかと考える。
※対策	他の例であるが、「週末に低学年は、だっこしてぎゅっ！と抱きしめられる宿題を出す。」といった家庭で児童と保護者のコミュニケーションを促すような取り組みも進めていきたい。

⑬防災教育について



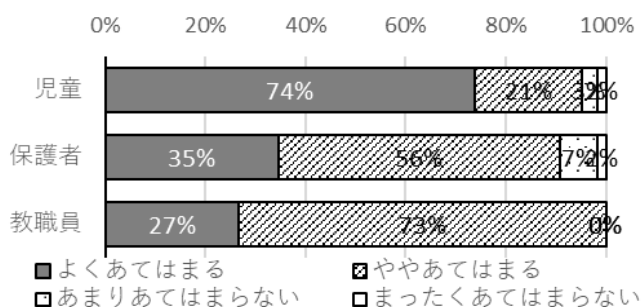
※地震や津波の時の避難のしかたが分かり、行動できる。

※家庭では、地震・津波避難や防災について話し合いをしている。

※地域と連携し、発達段階に応じた防災教育に取り組んでいる。

成果と課題	93%の児童が避難の仕方を理解しているが、親子で評価のギャップがある。家庭内でも災害時の避難の仕方等をじっくりと話し合う時間が必要なのではないか。
※対策	本校では、引き続き発達段階に合わせて、避難訓練のたびに逃げ方・対策などを話し合う。また参観授業後等で防災についての学校行事を実施したい。(体験・講演)そして学校での学習を家庭へ広げていきたい。

⑭わかる授業



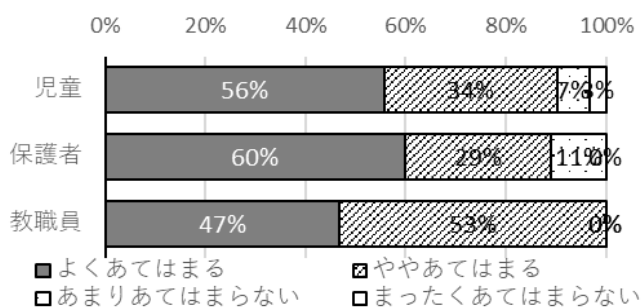
※先生は、毎日の授業をわかりやすく教えてくれる。

※お子さんは、学校の授業がよくわかると言っている。

※よく分かる楽しい授業を工夫している。

成果と課題	95%の児童が、学校の授業はわかりやすいと感じているが、5%はそう感じていない。
※対策	低学年では、国「読む・書く」の基礎基本を大事にする、算…具体物の操作で理解を深める。研修で授業力向上に取り組み、児童ができるまで支援を続ける。また働き方改革を推進し、教材研究の時間確保に努めたい。(可能な範囲で)

⑮PBS (ポジティブな行動支援)



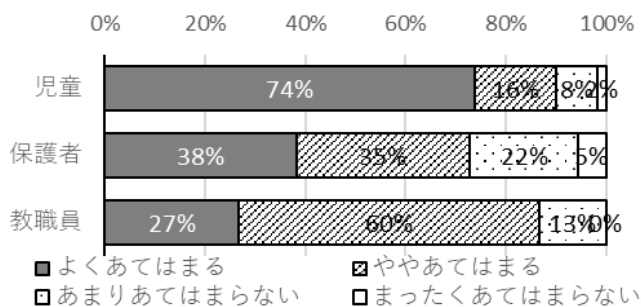
※先生は、がんばったことをほめてくれる。

※お子さんは、学校でほめられたことで自分への自信を高めている。

※PBSに取り組み、児童一人一人のよさを認め、しっかりと児童に伝えている。

成果と課題	90%の児童が先生にほめてもらっていると感じているが、6名の児童がそう感じていない。原因には、教師のコミュニケーション不足、教師の児童理解が不十分などが考えられる。
※対策	一人一人を理解し、PBSを継続する。でも悪い時はしっかり、はっきり叱る。

⑩健康・体力の向上



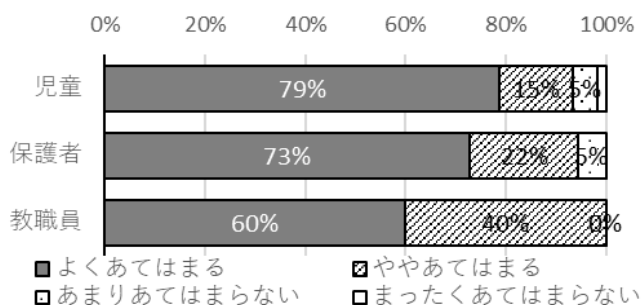
※休み時間に外で遊んだり、体育の時間に楽しく運動したりしている。

※お子さんは、家庭で外遊びや体力づくりに取り組んでいる。

※児童と一緒に外遊びをしたり、健康・体力向上に向けた活動や授業の工夫をしたりしている。

成果と課題	90%の児童が運動しているが、運動せず、中で過ごしていることが多い児童がいる。また、家庭でも、運動・体力向上にあまり取り組めていない。
※対策	体力向上に向けた活動の実施・授業の改善に取り組みたい。外遊びを好まない児童も外で活動できる機会の設定をしていきたい。保護者へは、実態を理解してもらおうと同時に、家庭でも体力づくりやに取り組んでもらうよう啓発する。（徒歩通学を勧める）

⑪人権教育



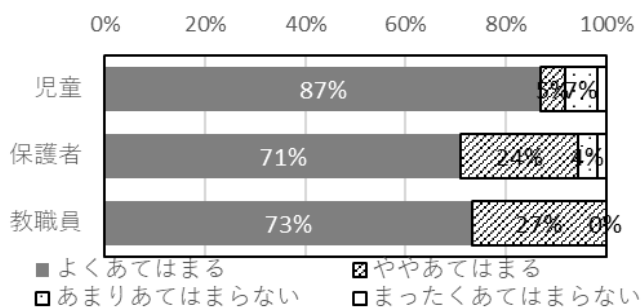
※自分のこと（命・人権）を大切にしている

※お子さんは、自分のこと（命・人権）を大切にしている。

※互いに認め合い、思いやりあふれる仲間づくりを通して、自他の命や人権を大切にできる児童を育てている。

成果と課題	94%の児童が自分を大切にしているが、4名の児童が、自分のことを大切に思っていない。児童が教師や友達と過ごす中で、ほめられたり、認められたりすることが少なく、自己有用感などを感じることができないのではないかと感じる。
※対策	様々な人権教育の取り組みを継続するとともに、PBSを推進し、児童の自己有用感を高める。（ほめる・認める）また、校内研修で「本校児童のよさ・課題」について話し合い、ブロック人権のテーマを決める。

⑫友達



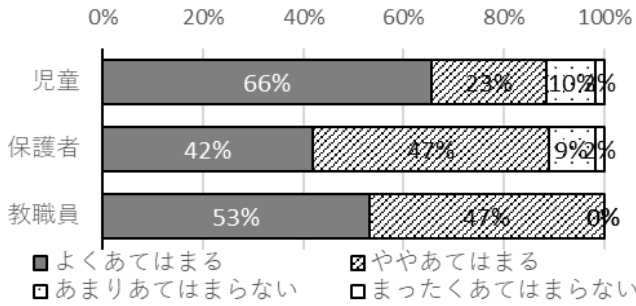
※話をしたり、話を聞いてくれる友達がいる。

※お子さんは、話をしたり、一緒に遊んだりする仲のよい友達がいる。

※児童と一緒に話をしたり遊んだりできる友達ができるよう、互いを認め合い差別や偏見のない学級集団作りに努めている。

成果と課題	92%の児童には、話のできる友達がいるが5名の児童が、できる友達がいないと感じている。少人数という人間関係の中で悩んでいる児童がいるのではないかと考える。
※対策	常に児童の様子を気を配り、児童の変化に気づけるように努めたい。またささいなことでも終礼等で共通理解を図りたい。あわせて授業では、発達段階に合わせた「仲間づくり」の活動を積極的に導入していきたい。

⑱ 故郷への愛着



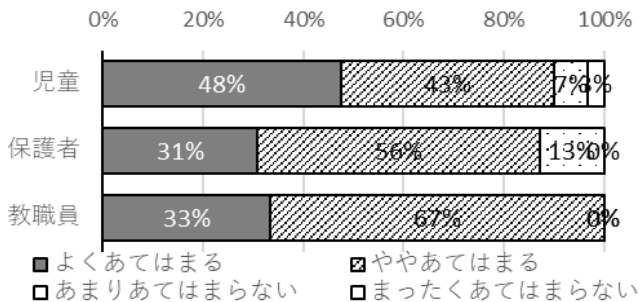
※阿南市や橘町が好きだ。

※お子さんは、橘町や阿南市のことが好きだと言っている。

※地域の人・もの・ことを活用するなど、阿南市や橘町を愛する気持ちを育む教育活動を展開している。

成果と課題	89%の児童が阿南市や橘町のことが好きと答えているが、7名の児童があまり好きではないと感じている。これは、地域のことを知ったり、地域の方と交流したりすることが少ないからではないだろうか。防災以外でも地域について学習する時間が必要であると考ええる。
※対策	地域と連携した教育活動を継続するとともに地域の歴史を学ぶ、橘町のよさを学ぶ学習を導入する。（地域に出向く活動 地域の人との交流 地域の誇り）

⑳ 学んだことを実践



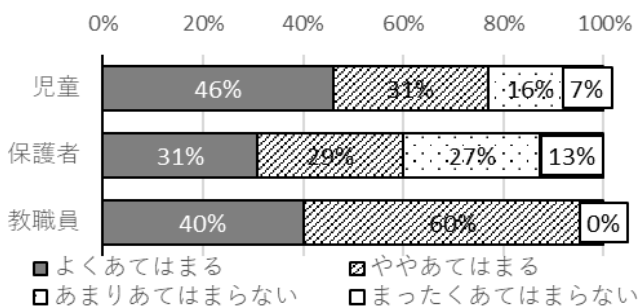
※学校で勉強したことを生活の中で使っている。

※お子さんは、学校で勉強したことを生活の中で活用している。

※学習したことを、児童が生活の中で生かせるよう指導や声かけをしている。

成果と課題	学んだことを実践できていない児童が9%ほどいる。原因として、生活経験・実体験に乏しいことや生活の中で使っていることに気づいていない児童がいるのではないかと考える。
※対策	各教科、総合的な学習の時間を活用して、体験的な活動を積極的に導入していきたい。

㉑ 将来の夢



※将来の夢をもち、夢を叶えるためにがんばっている。

※お子さんは、将来の夢を意識して努力している。

※児童と将来の夢について語り合い、児童の夢を応援する声かけをしている。

成果と課題	23%の児童が夢を意識して努力することができていない。自分の夢に向けて何が必要か、何をしなければならぬか等をじっくりと考えさせる必要がある。
※対策	ゲストティーチャーを招くなど、キャリア教育を充実させていくとともに、学級活動等で夢や、やってみたいことを語り合う。また授業では、基礎・基本の定着を図り、児童が今後夢を実現できる可能性を高めていきたい。